

新潟市秋葉区



ま

新

ち

津



歴



史

あ



探

る

訪

き

新津観光協会
<https://n-kankou.com>



鉄道の街として知られ、花と緑と石油の里といわれる「新津」（新潟市秋葉区）。

かつては能代川の舟運の川港として栄え、その後は石油産出による繁栄と、鉄道産業の発展により栄華を極めました。その痕跡は今もなお、地域のあちらこちらで観ることができます。

この冊子では、新津観光協会が組織する「観光ボランティアガイド」のメンバーが考えた、2時間程度で巡ることのできるモデルコースを紹介しています。

ガイドを利用して説明を聞きながらコースを巡ると、普段の何気ない景色が違ったものに見えてくるかも知れません。もちろん、冊子を参考に自分達でその場所に出かけるのも楽しいと思います。

さあ、多くの歴史が刻まれたまち「新津」を再発見する旅に出かけましょう！

Special Thanks：秋葉区観光ボランティアガイド

・荒木 信夫 ・小野沢 操 ・小原 芳子 ・鎌田 誠司 ・鯨岡 千代子 ・小岩 明子 ・小林 幸江 ・坂井 正生
・高橋 俊一 ・塚田 政春 ・深井 マチ子 ・本田 富義 ・柳田 忠 ・吉田 亮一 ・渡辺 彰

新津観光協会 新潟市秋葉区新津本町3-1-7（新津商工会議所内）

（平日9:00～17:00） TEL・FAX：0250-24-3777 E-mail：n-kankou@fsinet.or.jp

観光ボランティアガイドのご利用について

・料 金：1人 500円（資料代を含む）

※交通費および各施設への入場料は各自ご負担ください。

・所要時間：各コースとも2時間程度

・10:00～、・13:30～ ※ご要望により調整可能

・申込方法：ガイドを希望する日の7日前までに、新津観光協会へTELまたは
専用の申込フォームよりお申し込みください。



↑申込フォーム

注意事項

- ①2名以上でお申し込みください。
- ②お申し込み時に参加者全員の氏名・日中連絡のつく電話番号をお伝えください。
- ③保険の加入をご希望される場合は、お申し込み時にその旨お伝えください。（別途、保険料が掛かります）
- ④お申し込み後に担当ガイドから代表者の方に確認の連絡を入れさせていただきます。
- ⑤新津駅東口観光案内所「あ！キハ」では、ガイドのお申し込み受付は行っておりません。

観光レンタサイクルのご案内

・貸出場所：新津駅東口観光案内所「あ！キハ」（TEL:080-7089-1679）

・貸出日：観光案内所開所日（火曜定休・他不定休 ※12月～2月は冬季閉鎖）

・貸出時間：9:30～16:00 ※16:30までにご返却ください。

・協力金：1台につき100円のご協力をお願いいたします。



注意：民有地へは立ち入らない様、お願いいたします。

コース 1

古代の歴史を感じる古津八幡山

集合・解散
弥生の丘展示館前

古津八幡山遺跡は、今からおよそ2000年前の大規模な高地性環濠集落です。弥生時代後期から古墳時代にかけての社会情勢や変化を示す貴重な遺跡として、平成17年(2005)国の史跡に指定されました。また平成23年(2011)には、古津八幡山古墳が追加指定されています。復元された遺跡を巡って歴史を感じてみませんか!!

ルート ①弥生の丘展示館前 → (遺跡へ登り) → ②堅穴住居 → ③条溝 → ④方形周溝墓 → ⑤外環濠C → ⑥前方後方形周溝墓 → ⑦古津八幡山古墳 → ⑧北東地区遺跡(未指定地・民有地) → ⑨農協の石倉庫 → ⑩彫刻「友情」 → (遺跡の西側を經由) → ①弥生の丘展示館前



② 堅穴住居



堅穴住居の内部を探検します。

③ 条溝



北地区と、南地区を分けるために造られた濠。幅3.5m 深さ2m。

⑥ 前方後方形周溝墓



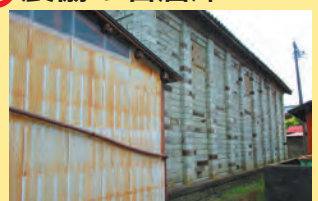
標高55mの遺跡で最も高い場所に造られています。

⑦ 古津八幡山古墳



県内最大の直径60mの円墳です。

⑨ 農協の石倉庫



戦時下、「米」が国家管理となり、一ヶ所に集積するため建てられました。

日本の石油王と言われた中野貫一から4代にわたり、この地で平成8年(1996)まで石油を生産し続けました。この新津油田金津鉱場跡は、近代日本におけるエネルギー産業の発展を物語る遺構として高く評価され、平成30年(2018)に国の史跡に指定されました。その遺構群を巡り、先人の知恵と努力の跡をお伝えします。

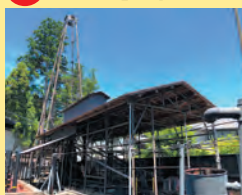
- ルート** ①里山ビジターセンター → ②C86号井 → ③石油の世界館 → ④ポンピングパワー1号機 → ⑤石油処理施設群 → ⑥開基坪 → ⑦泥溜 → ⑧C3号井 → ①里山ビジターセンター

⑦ 泥溜



原油と分けられた水を溜めた所。少量の油が含まれているので、サイホン方式で水と原油を分離しました。

⑧ C3号井



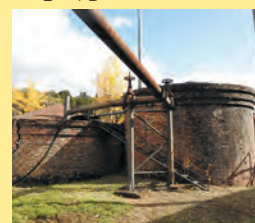
C3とは機械堀りの3番目の井戸の意味。深さ194m。明治36年(1903)から平成8年(1996)まで100年近く稼働しました。



⑤ 石油処理施設群

集油所

水切りタンク



加熱炉



新津の原油は比重の大きい重質油です。汲み上げた原油は加熱と水切り作業を繰り返し、油と水を分離しました。

休憩所(暖室)

④ ポンピングパワー1号機

ロマンの遊歩道

① 里山ビジターセンター

④ ポンピングパワー1号機



明治42年(1909)に導入の米国製。最盛期は6台の継転機で55本の井戸に動力を伝えていました。

お知らせ

- ポンピングパワーへは、20分程山道を歩きます。はきなれた靴でご参加ください。
- なお、山道に自信の無い方は、代わりに堀出神社をご案内します。

コース 3

新津駅の秘密と鉄道の街

集合・解散
新津駅東口広場

明治30年(1897)に開業した新津駅の移り変わりと、ホームに隠された秘密をご案内します。そして鉄道の繁栄と共にあった“にいつ0番線商店街”を歩きましょう。(駅構内は入場券が必要です)

ルート ①新津駅東口広場 → ②駅構内 → ③公衆電話ボックス → 人道跨線橋 → にいつ0番線商店街 → ④イマイ本町店壁面写真 → ⑤踏切警報機 → ⑥C57動輪 → ①新津駅東口広場

① 新津駅



平成15年(2003)に建替えられた現橋上駅舎は3代目です。

② 駅構内



「SLばんえつ物語」号の始発駅として、また全国でも珍しいエコステーションの駅として様々な設備があります。

③ 公衆電話ボックス



鉄道の街ならではのパンタグラフの載った珍しい電話ボックスです。線路の反対側にもあります。

⑥ C57動輪



北海道で長年活躍したC57-149号機の動輪です。

⑤ 踏切警報機



国鉄時代のなつかしい踏切警報機です。

④ イマイ本町店壁面写真



平成11年(1999)「SLばんえつ物語」号として復活したC57-180のパネル写真が展示されています。今では貴重な、SL3重連の写真も見る事ができます。



鉄道ポスト



▲…鉄道ポストの場所
新津のまちなかには鉄道の街にちなんだラッピングポストが4基設置されています。(2種類)

新津に奥の細道？ 小路を出たら旧家の土蔵？
小路は昔水路だった？ 桂家って？ ???を辿りませんか。

- ルート** 新津駅東口 → ①奥の細道？ → ②桂家の土蔵 → ③明治天皇行在所趾
→ ④桂家の外堀跡 → ⑤⑥堀出神社 → ⑦御神体復帰之碑 → ⑧今井眼科 → ⑨宝田橋
→ ⑩福耳地蔵・小揚小路 → ⑪水路のあと新津の町はずれ
→ ⑫善道神明宮参道 → 新津駅東口

③ 明治天皇行在所趾

明治天皇が北陸巡幸の折、桂家が行在所となり、その記念に建てられた碑です。

⑤ 堀出神社

新津氏の本家が金津に造った神社のご神体を持って来て堀出神社としました。

⑥ 良寛ゆかりの柘榴の木

良寛の病氣見舞いに桂家6代目が「柘榴(ざくろ)」を贈りました。そのゆかりの柘榴の木です。

⑩ 福耳地蔵・小揚小路

小揚小路の入口にあり、福耳地蔵と呼ばれています。

⑧ 今井眼科

明治13年(1880)中蒲原郡病院として開設された擬洋風建物です。今井眼科として現在に至ります。

コース5 オイルロード探索

集合 新津駅東口 解散 東新津駅

新津油田は明治末～大正の初めにかけて国内最大の産油量を誇り、新津川(旧能代川)沿いでは多くの製油所が稼働していました。製油所と舟やパイプラインによる移送ルート跡をたどり、石油との関わりを発見するコースです。

ルート ①新津駅 → ②小揚小路 → ⑤宝田橋と日本石油製油所跡 → ⑥石崎製油所跡 → ⑦新津温泉 → ③新津恒吉製油所跡 → ⑨日本石油/結城製油所跡 → 東新津駅

① 新津駅石油積込タンク

製油所からパイプラインでタンクへ送油されました。



⑤ 宝田橋と日本石油製油所

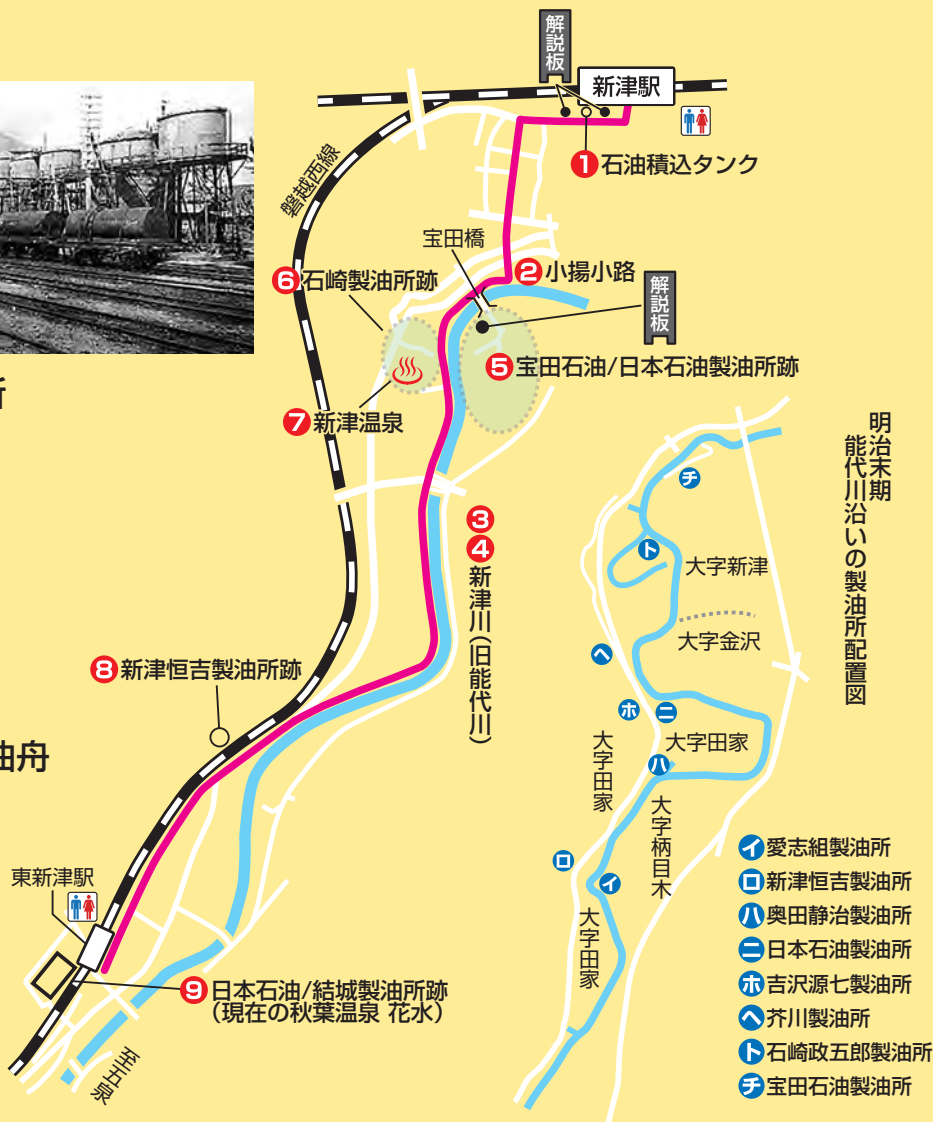


宝田橋と宝田・日本石油が合併した製油所です。

③④ 新津川(旧能代川)の油舟



新津川(旧能代川)を使い、川沿いの製油所へ舟輸送されました。



明治末期
能代川沿いの製油所配置図

- ① 愛志組製油所
- ② 新津恒吉製油所
- ③ 奥田静治製油所
- ④ 日本石油製油所
- ⑤ 吉沢源七製油所
- ⑥ 芥川製油所
- ⑦ 石崎政五郎製油所
- ⑧ 宝田石油製油所



最盛期の新津油田

秋葉丘陵の茶畑に石油櫓が林立しています。写真の下部に小規模の製油所が稼働して煉瓦煙突から煙が確認できます。

③④⑤の写真
「写真集 ふるさとの百年 新津・白根」
(新潟日報事業社、昭和56年)

コース 6

大庄屋が息づく秋葉山

集合・解散

秋葉公園噴水広場

見晴らしのよい山一帯に松を植え、青々と繁栄が続くようお願い、神社を建立し、山の名も秋葉山とつけて、皆の憩いの場としました。歴史と文化に彩られた自然豊かな新津のシンボル“秋葉山”をご案内します。

ルート 噴水広場 → ①秋葉神社入口 → ②七色の池 → ③日本庭園
→ ④秋葉神社拝殿 → ⑤祈祥碑 → ⑥秋葉神社本殿 → ⑦二本松配水場
→ ⑧見晴し広場 → 噴水広場

⑤ 祈祥碑



3代桂誉春が観音堂を建て、朝夕参詣し、子孫の幸福を祈りました。
孫の5代目成章が参詣10万回達成した際に碑を建てました。

③ 桂家別邸跡の日本庭園 良寛柘榴の返歌碑



かつてこの場所には桂家の別荘「桂山荘」がありました。

① 秋葉神社入口



3代目桂誉春が宝暦11年(1761)新発田藩より田家山を賜り、秋葉神社を遷座しました。

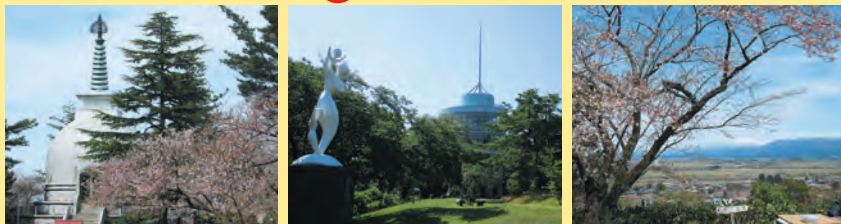


⑦ 二本松配水場



秋葉山の最高峰(83メートル)で見晴らしの良いスポットです。

⑧ 見晴し広場



平和塔・母子平和像・五峰閣展望台

順徳天皇若宮の悲劇

集合・解散

縄文の鳥居駐車場(大関)

※レストラン テールエテッラを目印にお越し下さい。

承久の乱(1221年)で敗れ、佐渡に配流された順徳天皇。その父に会いたい一心で越後まで来た第2皇子“広臨(ひろみ)親王”が、この地で鎌倉幕府の追手に囲まれ、わずか16歳で自害したと言われています。これを哀れんで地元の人達が、若宮社と観音堂を建て、若宮様として長年吊ってきました。この悲劇の物語をご案内します。(本宮は五泉市能代の若宮神社)

ルート ①縄文の鳥居 → ②若宮橋 → ③④間家・大ケヤキ → ⑤⑥仁王門・観音堂 → ⑦若宮廟 → ⑧茶畑 → ①縄文の鳥居

(御希望により平遺跡・間神社と坑夫の像にも)
ご案内致します。

10 坑夫の像
昭和19年(1944)軍需生産美術推進隊によって現地で制作された、石油戦士のセメント像です。

8 茶畑
明治時代の小口は、お茶の産地として名声を馳せました。

7 若宮廟
百段坂を上った観音山に若宮の墓と伝えられる廟があります。隣には若宮社があり地元で手厚く守ってきました。

6 観音堂
若宮様の守り本尊「観世音菩薩」を祀っています。秘仏であり、33年に1回、御開帳されます。

3 間家
4 大ケヤキ
若宮をかくまったと伝えられる間入道閑斎の子孫の屋敷です。間家の前には高さ26mの大ケヤキがあります。

2 若宮橋
能代川改修工事により、平成6年(1994)に完成した歩道橋。橋の飾りの金色の擬宝珠が印象的です。

1 縄文の鳥居
秋葉区大関地内から三条市にかけての丘陵地は、縄文時代からの遺跡が多数あり、縄文の道として自然に親しむ遊歩道になっています。

新津は明治末～大正にかけて日本一の石油採油量を誇っていました。
当時の繁栄ぶりを史蹟等を辿りながらご案内します。

ルート 東新津駅 → ①秋葉温泉 花水 → ②青沢十字路 → ③茶屋跡 → ④手堀油井戸
→ ⑤皇太子駐駕處碑 → ⑥熊沢トンネル → ⑦煮坪 → ⑧秋葉硝子
→ 東新津駅

⑦ 煮坪



真柄仁兵衛が慶長13年(1608)頃発見した新津油田発祥の油坪。
越後七不思議の1つ。
※市指定文化財

⑥ 熊沢トンネル



熊沢地区での石油運搬路として明治33年(1900)に完成した人力で掘った隧道です。
それまでは山越えて運んでいましたが、完成により舟着場まで最短で結ばれました。
現在のトンネルは昭和50年(1975)に改修されました。

⑤ 皇太子駐駕處碑



大正天皇が皇太子時代の明治35年(1902)に、熊沢油井視察で訪れた所。記念の碑が明治40年(1907)に建てられました。



⑧ 秋葉硝子



かつて秋葉山周辺には豊富な天然ガスを利用したガラス工場がたくさんありました。
※写真は旧工場のものです。

④ 手堀油井戸(深さ27m)



この付近一帯は熊沢油田と言われ、明治から大正にかけて最も栄えた新津油田の1つです。辺りには手堀井戸がたくさん掘られました。
この井戸は帝国石油から寄贈されたものです。
※市指定文化財

菩提寺山登山ルートにもなっている山道を少し歩き、石油王“中野貫一翁”が建立した堀出神社や鎌倉時代の金津城址、かつて山伏修行の地であった白玉の滝一带等をご案内します。歴史を偲びながら森林浴を楽しみ、非日常の風情を味わいましょう。

- ルート** ①里山ビジターセンター → ②石油処理施設群 → ③堀出神社 → ④金津城址・桜広場 → ⑤白玉の滝 → ⑥開基坪 → ⑦東大通川用水路 → ⑧不動明王を祀るお堂 → ①里山ビジターセンター

⑤ 白玉の滝



かつては山伏修行の地でした。上部にある雄滝は落差15m、手前にある雌滝は落差7mです。

⑦ 東大通川用水路



大通川に油が混じっていることから中野貫一が私費を投じて用水路を作り、真水の川から水を誘水し、地域の生活用水としました。

④ 金津城址



1200年頃、金津資義が築城した跡です。

③ 堀出神社



石油王中野貫一が油田の繁栄と地域のために造営。村内12社を合祀しました。

⑧ 不動明王を祀るお堂



白玉の滝の上に祀られていましたが、江戸時代「里に出たい」との夢を長老がみて、現在地に祀られました。

縄文時代より人々が生活してきた古津地区は、由緒ある神社 仏閣があり、また、優れた人材を輩出している地域です。折々の風景も楽しみながら、古津地区を歩いてみましょう。

ルート 古津駅 → ①農協の石倉庫 → ②本多家^{そうほうひ}雙芳碑 → ③普談寺 → ④^{あさいいの}巨飯野神社 → ⑤原田哲男モニュメント → ⑥酒井憲次郎碑(廣大寺) → 古津駅

① 農協の石倉庫

戦時下、米が国の管理となり、一ヶ所に集積するために建設されました。高価な荻野石が使われています。

② 本多家^{そうほうひ}雙芳碑

この地で医業と私塾を開いた本多親子の碑です。子弟の中野貫一等により建てられました。

⑥ 酒井憲次郎碑(廣大寺)

一等飛行操縦士で千歳飛行機着陸場造成にも尽力しました。碑は母親により建てられました。

④ ^{あさいいの}巨飯野神社

延喜式神名帳に登録されている由緒ある式内社です。

③ 普談寺 観音堂

上杉謙信はじめこの地を治めた武将たちの帰依篤く、越後33観音霊場30番札所となっています。

作家坂口安吾は、昭和21年(1946)に発表の「墮落論」「白痴」で敗戦に打ちのめされていた人々に大きな影響を与えました。安吾は時代の寵児として、一躍脚光を浴び、現在は安吾の父祖の地、大安寺の墓所に眠っています。

坂口家は代々の旧家で富豪として知られ、地域に貢献しました。その足跡と安吾の眠る地を巡りましょう。

ルート 大安寺集落開発センター → ① 檀一雄句碑 → ② 伴百悦の墓 → ③ 坂口家墓所 → ④ 坂口仁一郎邸跡地 → 神明宮(⑤ 社号碑 ⑥ 東峨句碑) → 大安寺集落開発センター

① 檀一雄句碑

親友の檀は、安吾の死後この地を訪れ、安吾を偲びました。

⑤ 神明宮社号碑

会津八一に指導を仰ぎ、安吾の兄献吉が揮毫しました。

⑥ 東峨句碑

4代坂口津右衛門の辞世の句。北越三雅集に掲載されました。

② 伴百悦の墓

戊辰の役で、坂口津右衛門を頼ってきた会津藩士、伴百悦の墓碑です。

③ 坂口家墓所

安吾は先祖や父仁一郎、兄献吉、妻三千代と共にここに眠り、献吉の遺言の抜粋が彫られています。

① 檀一雄句碑

○大安寺集落開発センター

神明宮
⑤ 社号碑

坂口家墓所
③

津右衛門宅跡

④ 坂口仁一郎邸跡地

OJAカントリーエレベーター

④ 坂口仁一郎邸跡地

旧村松藩主の隠居所を移築した建物で、安吾の父祖の地です。のちに阿賀小学校として使われました。

図書館裏の文学碑

安吾の代表作「桜の森の満開の下」の石碑

新津駅前文学碑

「あちらこちら命がけ」の石碑

解説板

観光解説板と歴史案内板について

新津地域には新津の歴史を語る上で欠かすことのできない場所に「観光解説板(180cm×50cm)」が設置されています。黒基調の看板には、写真や絵を使った説明の他、インバウンドを考慮して英文での説明が併記されています。※一部除く

また、新津駅東口側のまちなかには、所々に「歴史案内板(44cm×11cm)」が掲示されており、“小路”等について紹介しています。

ぜひ、まちあるきの際にご覧ください。

歴史案内板
★…掲示場所





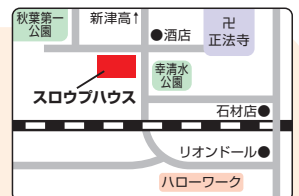

観光解説板




◎地図外の観光解説板の設置場所：秋葉神社・金津堀出神社・白玉の滝



古民家宿泊施設のご案内 (旧大谷邸：スロウプハウス)



※石油の世界館に展示

旧大谷邸は新津で製油業を営んでいた大谷製油所の創業家が本宅としていた建物で、五泉市村松地区にあった土族の館を昭和10年(1935)頃に現在地に移築したものです。一時は空き家となりましたが、令和5年(2023)11月に飲食店を兼ねた古民家宿泊施設「スロウプハウス」としてオープンし、活用されています。

まちなかからほど近い秋葉丘陵の入口にあり、JR新津駅から徒歩圏内(18分)に位置しています。敷地内に駐車場(約10台)を備えており、近くには食品スーパーや日帰り温泉(新津温泉・秋葉温泉 花水)もあります。



スロウプハウス <https://slopehouse.jp/>
所在地：新潟市秋葉区秋葉1丁目6-20



📍 コース外にある注目観光スポット

① 妙蓮寺山門



文政9年(1826)に建造された山門です。奥へ続く参道は鉄道線路が横切っており、踏切が設置されています。寺の敷地内には、旧新発田藩を揺るがした「塩止事件」の主人公である井上久助正利の墓があります。
※市指定文化財

② 桜清水



昔よりこの地では飲み水に恵まれませんでした。ある時、村のお宮を建て替えるための壁土を掘り出していたところ、中からきれいな水が湧き出したそうです。那加武良神社のすぐ隣にあり、今でも飲料水として多くの方に利用されています。
※市指定文化財

③ 幸清水



新津は昔より水の質が悪く、飲み水不足に悩まされていました。庄屋の長井久左衛門は文化4年(1807)この地で泉を見つけ、自費を投じて整備し、地域の人々に開放しました。以来、昭和7年(1932)に上下水道が整備される約130年間、人々の生活を支えました。
※市指定文化財

📷 秋葉区おすすめビュースポット

🌸 新津川水仙・桜ロード



🌸 さつき山公園



🌸 一の堰の桜



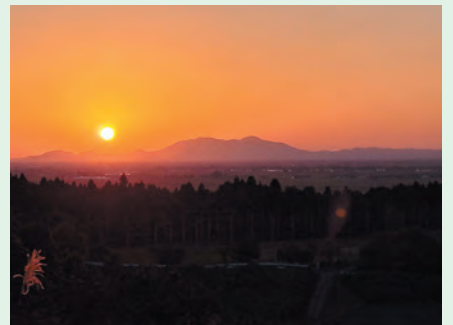
🍁 満願寺のはさぎ並木



🍁 石油の里の紅葉



🍁 柿団地からの夕景



🌍 国道403号 フラワーロード



🌍 県立植物園 野外園地



🌍 秋葉湖



歴史探訪コースマップ



秋葉区湯めぐり情報

③ 新津温泉



知る人ぞ知る、新津川沿いにある穴場スポット。お湯は石油の匂いが漂う、新津ならではの泉質。施設内は銭湯の様な雰囲気です。約4ヶ月に1度、間欠泉よりお湯が噴出します。
 ・JR越後本線「新津駅」より徒歩12分
 営業時間8:00~18:30 TEL0250-22-0842

⑤ 秋葉温泉 花水



元製油所の跡に建つ、癒しの日帰り天然温泉。開放感溢れる館内には、温泉の他、レストランやスパトリートメントサロンもあり、多種多様なリラクゼーションを提供しています。
 ・JR磐越西線「東新津駅」より徒歩1分
 営業時間10:00~21:00 TEL0250-24-1212

④ 小須戸温泉健康センター 花の湯館



矢代田にある日帰り温泉。かつてこの地域で石油採掘の際、共に湧出していた温泉が、花の湯館の源泉となっています。館内にカフェがあり、お食事も提供しています。
 ・秋葉区区バス「花の湯館前」下車すぐ
 営業時間10:00~21:00 TEL0250-38-5800

★…観光解説板
 解説板